

信州発・これからの図書館フォーラム

書店・図書館等による連携協議会報告 と書店在庫情報プロジェクト

2025年6月14日

一般財団法人 出版文化産業振興財団（JPIC）
専務理事 松木修一



設 立

1991年3月27日

背 景

- 「著者から読者に本を手渡すまで」を出版文化産業と捉え、業界横断の非営利法人として設立されました。
- 「出版文化産業と読書活動に係る生涯学習の推進」を事業目的の第一に掲げ、「本」「読書」「学び」「心豊かな生活」などをキーワードに事業を展開しています。

団体構成

●出版社	189社
●販売会社	10社
●書店	11社
●書店組合	15組合
●教科書供給所	3社
●一般(印刷・製本・輸送等)	29社
●関係団体	4団体
●一般書店会員	72社

役員構成

業界4団体が参画、出版業界横断組織

JPIC
の
強み

- 理 事 長 近藤 敏貴(トーハン会長)
- 副理事長 奥村 景二(日本出版取次協会副会長・日本出版販売社長)
小野寺 優(日本書籍出版協会理事長、河出書房新社社長)
宮原 博昭(日本雑誌協会理事長、学研ホールディングス社長)
矢幡 秀治(日本書店商業組合連合会会長、真光書店社長)

事業活動



生涯学習事業



調査研究事業



情報提供事業



交流協力事業



受託事業・業務等



出版コンテンツ海外発信事業



出版文化産業振興財団（JPIC）主な事業

Page. 2

●生涯学習事業

JPIC読書アドバイザー養成講座



読みきかせサポーター講習会



マンガ感想文コンクール



●交流協力事業

上野の森 親子ブックフェスタ



東京大商談会・BOOK EXPO



●出版コンテンツの海外発信事業

翻訳・
寄贈業務



「やってみよう読みきかせ」講座

読みきかせボランティアになりたいけれど、何からスタートしたらいいかわからない、毎回講座に通うのは大変、費用はなるべくかけたくない。
JPICが提供する「やってみよう読みきかせ」は、そんなニーズにお応えできる講座です。
講師は全国各地にいるJPIC読書アドバイザー。



■STEP 1■

6本の動画でしっかりと読みきかせの基礎を学んでもらいます。



- 動画構成
- | | |
|--------------------|-------|
| 1.読みきかせとは | (26分) |
| 2.おはなし会の準備 | (19分) |
| 3.赤ちゃんのおはなし会 | (19分) |
| 4.未就学児への読みきかせ | (26分) |
| 5.小学生を対象におはなし会を開く | (29分) |
| 6.おはなし会 こんなときどうする？ | (15分) |

■STEP 2■

ボランティアとして活動するために読みきかせを実践してもらいます。

- 開催方法
- 1.自治体様独自で開催(講師/図書館司書など)
 - 2.自治体様にJPICが講師を派遣(1名)
 - 3.職員がJPIC開催の実践講座に参加(参加者が講師)
- * 講座を開催しない場合は、JPICが開催する実践講座(全国2会場)に参加する。(交通費そのほかは参加者負担)

地域連携による読書推進

Page. 4



読書推進のための業界横断キャンペーン

BOOK MEETS NEXT 2025

2024 全国9地域
101イベント実施

全国の自治体・図書館・書店・企業等と連携したイベントを開催

- 全国の書店、出版社、取次、著者、図書館等が一丸となって行うキャンペーン
- 秋の読書推進月間をメインとして年間を通した事業に発展
- 子どもから大人まで広い世代に読書の楽しさを伝える事業に成長

本好きだけでなく、これまで本に興味のない方にも
本と出会う機会の創造と本の魅力の創出を狙う

地域連携イベントの事例

神戸市

「BOOK MEETS NEXT in KOBE」

自治体×地元企業×書店

10/26～12/26 2企画

- 街歩きキットを購入して参加する
「神戸謎解き街歩き」実施
- 三宅香帆氏×浅井博章氏対談



山梨県

「YAMADOKU BOOK FES」

自治体×図書館×書店×大学

11/10～11/17 10企画

- 矢部太郎氏ほかトークショー
&サイン会
- 着ぐるみ撮影会 など



三重県

「三重県立図書館移転・開館30周年」

自治体×図書館×書店

2024年11月10日

- 万城目学トークショー
- 図書館・書店ラリー
- 皇學館コラボ：書籍販売会



東京都

「TOKYO BOOK NIGHT」

自治体×大学×書店×飲食店×企業

2024年10月26日～11月24日

- オープニングイベント 川原繁人氏×北山陽一氏
- スペシャルイベント フランスの文化政策
- 「本」と「声」2024/声優トークショー
- 日本最大のブックイベント
- 書店・史跡をめぐるウォーキングラリー



地域連携による読書推進

Page. 5

本が育む、心かな生活

上野の森 親子ブックフェスタ

2022年から始まった全国の書店、出版社や取次・著者・図書館など出版関係者が一丸となて行う読書推進キャンペーンは、秋の読書推進月間をメインとして年間を通した事業に発展、全国で自主的な活動も増加して子どもから大人まで広い世代に読書の楽しさを伝える事業に成長してきました。

主 催 : 子どもの読書推進会議、日本児童図書出版協会、JPIC

協 力 : 日本出版取次協会

日 時 : 2025年5月4日～5日

会 場 : 上野恩賜公園(台東区)

出展者: 80社 来場者: 3.4万人



ブックフェアの事例

よこはまこども読書パーク

主 催 : 横浜市 協力: 有隣堂 業務委託者: JPIC

日 時 : 2025年3月22日(土) 10:00～16:00

会 場 : 横浜市役所1階アトリウムほか

出展者: 出版社11社 来場者: 1,400人



KYOTO BOOK SUMMIT

主 催 : 京都府書店商業組合 協力: 京都市ほか

日 時 : 2024年11月23日(土)～11月24日

会 場 : 梅小路公園七条入口広場

出展者: 出版社67社 来場者: 約3万人



BOOK MEETS NEXT in ひろしま

主 催 : 広島県書店商業組合・広島市立図書館

日 時 : 2024年11月4日(日)

会 場 : 広島ゲートパーク大屋根広場

来場者: 920人



本と出会う居場所づくり

本だなプロジェクト

家に1冊も本がないという家庭も見受けられる昨今、身近なところに「本だな」と「本」を設置して、読書の楽しさを知ってもらおうとJPICが進めている企画です。

本だなと本を設置するのは子ども食堂や無料塾、フリースクールなど。

出版社から提供いただいた本を地元書店から施設に届けるシステムをとることで、まちの書店と子どもをつなぐ役割も担います。

施設担当者はJPIC提供「やってみよう読みきかせ」の視聴が必須です。

その後、定期的なおはなし会や読みきかせを実践いただき、一過性で終わらないプロジェクトとしています。

施設担当者の代わりに、読みきかせボランティアがおはなし会を開いてもいいでしょう。

2025年度募集(案)

対象:こども食堂、無料塾、フリースクール

施設数:30施設(応募多数の場合は抽選)

ご協力いただく出版社の児童書・絵本を地元書店から施設に提供します

自治体×施設×書店×出版社



子ども読書環境プロジェクト

学校図書館等に図書を寄贈する
「企業版ふるさと納税」

各プレイヤーの役割

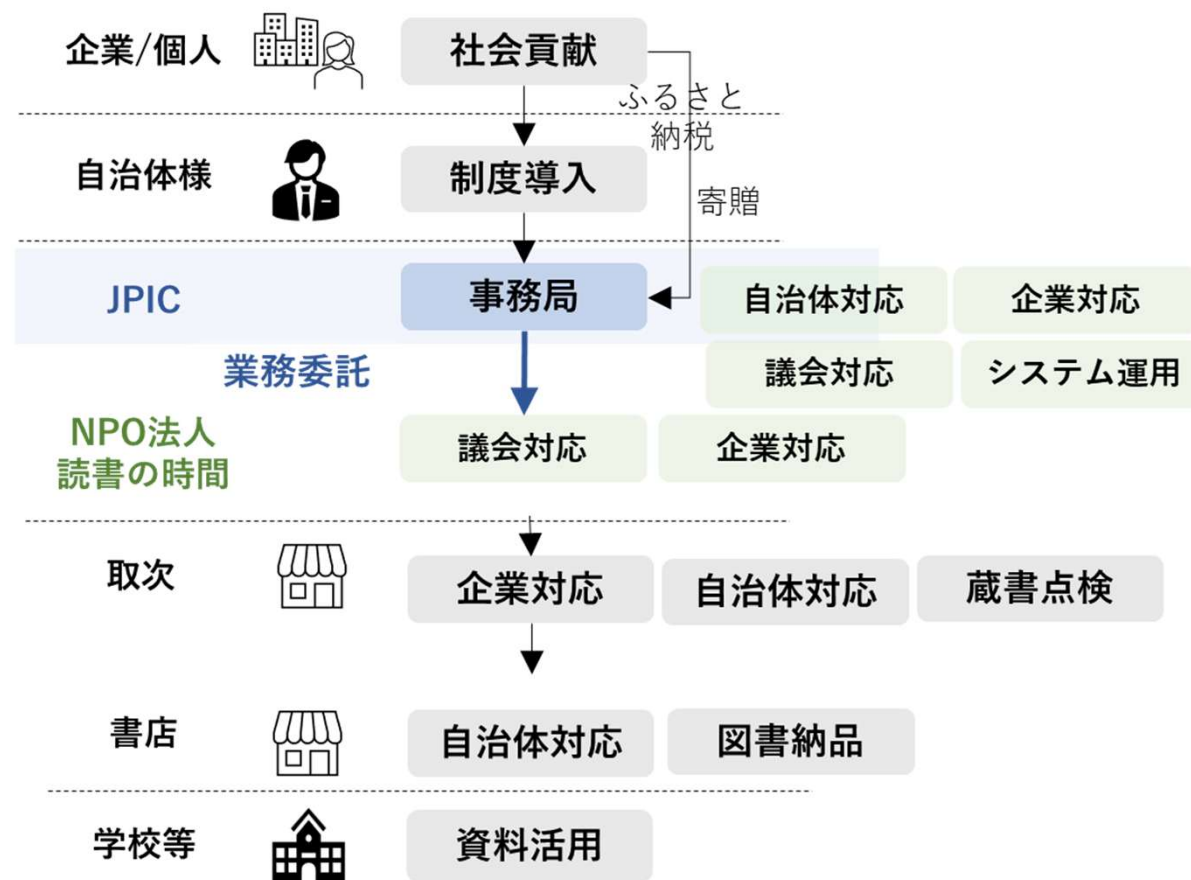
●自治体… 制度導入

●企業/個人… 社会貢献

●地元書店 … 図書納入

●JPIC…

自治体×企業をマッチング



地元書店の利用による学校図書館の充実

はたちの20冊



10代から 20代の読書普及を目的に作成をしている『はたちの20冊』

- 「もっと本を読んでほしい」「読書を通して、自立した社会人になってほしい」との願いを込めて著名人が選ぶ 成人に読んでもらいたい本をまとめたリスト『はたちの20冊』を制作
- 著名人5名が各3点推薦、残り5点は各自治体が選書
- 成人を祝う節目の式典で自治体オリジナル冊子配布

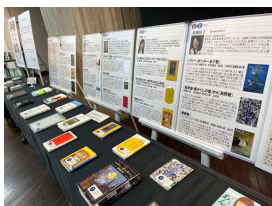
2024年度採用自治体

- 横浜市 ●利府町 ●飯館村 ●春日市
- 幕別町 ●田布施町 ●有田川町

地域連携の事例

横浜市

「はたちの20冊」掲載書目の展示・フェア(2022年1月10日～1か月間)
横浜市立中央図書館tp地元14書店で実施



横浜市立中央図書館



有隣堂西口ジョイナス店



紀伊國屋書店横浜店

Copyright©2025. JPIC All rights reserved.

出張授業を開催

2024年度から、この世代に直接「読書」について伝える出張授業をスタート

●前田裕太さん(ディモンディ)

日時:2025年2月16日

会場:有田川町地域交流センターALEC(和歌山県有田川町)

講師:前田裕太(ディモンディ/芸人)

講演テーマ:「ディモンディ前田の読書講演会

～本の魅力と面白い作品たくさん紹介します～」

参加者:90名

何度も読み返す絵本から小説まで11冊を、好きな一節とともに紹介。
講演後 すぐにその本を図書館で借りる人が続出した。

●矢部太郎さん

日時:2025年2月 11日

会場:幕別町百年記念ホール(北海道幕別町)

講師:矢部太郎(芸人、俳優、漫画家)

授業テーマ:「矢部太郎さんの 読書のすすめ」

参加者:250名

育ってきた読書環境や読書力のつけ方などをイラストとともに話し
聴衆を魅了した。

今年度も多様な選者による『はたちの20冊』を制作、
出張授業を開催する

街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟

- ✓ 2022年4月 書店議連（自民党議連）の出版界窓口をJPICが担う

提言書中間報告 第一次提言

- ✓ 2022年12月 ✓ 2023年4月

「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」

- ✓ 2023年6月 出版業及び書籍・雑誌小売業などの産業構造転換等の支援
文化芸術・スポーツの振興に「書籍を含む文字・活字文化」と掲載
- ✓ 2024年6月 書籍を含む文字・活字文化の振興や書店の活性化を図ると掲載

「国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策」

- ✓ 2024年11月 2025年春までに、書店活性化プラン（仮称）をとりまとめる。図書館と書店等の様々な関係機関との連携協働を促進し、人と人、人と情報をつなぐ地域に根差した読書環境の整備を支援する。

諸外国と日本の出版文化産業振興比較

日本は対象6カ国中で文化歳出予算額が最も小さく、出版物は軽減税率の対象外

国	文化歳出 予算額	人口	国民1人当たりの 文化歳出予算額	出版物に適用 される軽減税率	定価販売法
日本	1,117億円	1億2,431万人	899円	-	再販制度
英国	2,246億円	6,710万人	3,347円	標準20%に対し0%	-
米国	2,846億円	3億3,514万人	838円	州により免税	-
ドイツ	3,677億円	8,448万人	4,353円	標準19%に対し7%	あり 割引不可 電子も対象
フランス	6,676億円	6,804万人	9,812円	標準20%に対し 書籍5.5% 雑誌2.1%	あり 最大5%割引 電子は割引不可
韓国	4,954億円	5,144万人	9,630円	標準10%に対し 非課税	あり 最大15%割引 電子も対象

(出所) 文化庁 令和5年度 諸外国の文化政策等に関する調査・研究／財務省 諸外国における付加価値税の概要 2024.1／経済産業省 国内外の書店の経営環境に関する調査 2023.10

今回取りまとめた『書店活性化プラン』は、書店活性化の課題の中で挙げた課題について、

- I. 読書人口の減少や書店の魅力向上に関する課題
- II. 地域における書店と図書館・自治体との連携の在り方
- III. 業界慣行における課題
- IV. 経営における効率化・省力化に関する課題
- V. 新規開店やキャッシュレス決済に関する課題

の5つに分類し、政府が単独又は民間と協力して取り組む施策を整理したものである。

ここに整理した施策を推進することで、読書文化や文字・活字文化を振興し、出版業界全体のバリューチェーンにおける構造調整などを進めつつ、地域の文化拠点たる街の書店の活性化を図っていくことが重要である。

引き続き、本プランを発表後も、各省連携により、継続的に見直し、必要な課題の整理や本プランのメニューの調整を行い、取り組みを進める。

なお、その上で、次に取り組むべき課題としては、既に書店がない自治体において、書店をいかに新設・継続し、地域の教育力への貢献を果たしていくか、という点にある。

その際、地方創生交付金などの支援主体であり、公共図書館の運営者である市町村の首長の参画が欠かせないことを書き添える。

“書店・図書館等関係者における対話の場”を実施

✓ 2023年10月～2024年3月（計4回）

「図書館・書店等連携実践事例集」を公開

✓ 2024年10月

「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」の発足

令和6年度 補正予算

文字・活字文化の振興 **51百万円**

1. 読書のまちづくり推進事業
6箇所(自治体等)×6百万円＝36百万円
2. 図書館・書店等連携促進に向けた調査研究 6百万円
3. 障害者サービスの調査等 9百万円

「対話の場のまとめ」においては、「書店・図書館等が直面する現状と課題に対して、書店・図書館等関係者が協力し、読者人口を増やすこと、すなわち「読者育成」を目指すことに大きな意義があることを確認した。」として、書店・図書館等の連携促進方策を提案している。それを受け、次の連携促進方策に取り組み、実証と検証・普及を推進する。

- 書店と図書館とのシステム連携
- 書店での図書館資料の受け取り・返却、図書館での書籍販売等
- 「図書館本大賞」（仮称）の創設
- 実践事例の収集・普及

 「書店と図書館員が学び合える研修機会」を設ける（案）も

本協議会は総合的な意見交換と方向性を決定する「全体会」と新たに発足させるワーキングチーム、連携を頂ける自治体をもって構成する。

なお、「ワーキングチーム」はテーマごとに実務担当者を中心として構成し、実践・検証を行うこととする。

協議会の庶務は、日本図書館協会及び出版文化産業振興財団が共同して処理する。

I. 書店在庫情報プロジェクト

- ・ 読者の活動地域の店頭在庫の検索を通じて、書店に足を運ぶ読者を増やす
- ・ 書店の規模やシステム対応の可否などに関わらない店頭在庫の開示を目指す
- ・ 出版社のHPなど様々なウェブサイトから地域書店での本の購入可能性を高める
- ・ 本を紹介するサイト、ブログでのネット書店以外の店頭在庫確認を促進する
- ・ 図書館システムとも連携し、図書館での貸出待機者へ地域の書店在庫を知らせることで読みたい時の読書の機会を増やす
- ・ 常に読者・購入者視点で欲しい本が近くにあることの表示を可能にする

書店在庫情報プロジェクト利用者イメージ



本と読者を繋ぐ新たなアプローチ

書店在庫情報プロジェクト 実証実験

書誌情報 カーリル・版元ドットコム書誌データベース「openDB」

書店情報 日本出版インフラセンター(JPO)共有書店マスタ *外商口座を除く約8,000店舗

Phase.1 実証試験フェーズ
2024年4月～12月

- ・プロジェクト公開・稼働による認知拡大
- ・実務課題の洗い出し
- ・読者による利用を想定したインターナショナルエースの確認
- ・永続性・信頼性・安定性の検証・確立
- ・事業継続計画の策定

Phase.2 拡大フェーズ
2025年1月～12月

- ・最終モデルを想定した実運用の検証
- ・プロジェクト考課の測定

Phase.3 最終モデルリリース
2026年1月～

- ・プロジェクト効果の検証
- ・事業展開計画の測定

公共図書館×地元書店

の連携が重要

実証実験参加(2025年4月31日時点)

- <書店> 今井書店、大垣書店、くまざわ書店、ブックファースト、小川書店(東京)、TOUTEN BOOKSTORE(名古屋)、BOOKSHOP TRAVELLER(東京)、高島書房(福島)、ブックスふかだ(大阪)、たつみ書店(奈良)、ジャパンプックス郡山店(奈良)、SHEEPSHEEP BOOKS(鳥取)、東京堂書店、勝木書店グループ他
- <図書館> 県立長野図書館(2024年7月31日)、京都府立図書館(2024年11月1日)、小金井市立図書館・刈谷市立図書館
その他多くの図書館で検討中
- <サイト> 小学館、吉川弘文館、リプライズ、版元ドットコム、カーリル、ポット出版、青弓社、スタイルノート、HONDANA+ KADOKAWA

自店在庫情報を自力でアップロード方法

I. アップロードする銘柄の決め方

- ①全国の売上ランキングや販売会社のランキングから抽出する
- ②自店の売上ランキングから抽出する。
- ③近隣の図書館の予約上位や貸出上位から抽出する。

II. アップロードの方法

- ①「在庫あり」のみ表示する場合は以下のアドレスに在庫銘柄のISBNを送る。
 - ②「在庫あり」「在庫僅少」を表示する場合は以下のアドレスに在庫銘柄のISBNと○△を送る。
- * フォーマットの指定はなし、①②の要件が含まれていれば自社システムから抽出できるデータをそのまま構わない。

URL : <https://info.openbs.jp/upload>

令和7年度 予算

地域が有する文字・活字資源を活用した特色のある取組を支援
40百万円

地域における文字・活字文化の発信拠点・担い手である書店、出版社、大学、文学館等関係機関が連携し、協働して実施する**特色ある取組（地域に存する文芸作品等を活用した取組等）**を支援し、文字・活字文化の**振興モデルを構築**する。あわせて、今後の横展開に資するよう、**好事例の提供など事業成果を広く全国に発信・普及**する。

■ 文字・活字文化資源活用推進事業(委託) 40百万円（新規）

- 地域が有する文字・活字文化資源を活用した特色ある取組を支援

(取組例)

・地域にゆかりのある文芸作品や作家等を題材にして、地域における文字・活字プランを企画し、文字・活字に親しむ機会（読書会、書評会、展覧会等）を継続的・重層的に提供すること等

【連携・協働のイメージ】



- ✓ 文字・活字文化の**発信拠点・担い手の活性化**(ネットワークの構築)
- ✓ 文字・活字**コンテンツの再発見、活用**
- ✓ 文字・活字に**親しみ、触れる機会(読書環境)の充実**
- ✓ 文字・活字文化を活用した**地域振興**

交付先 民間団体等

■具体的な施策

V－① 書店を活用した地方創生の取組への支援

地方がそれぞれの特性に応じた発展を遂げることができるよう、日本経済成長の起爆剤としての大規模な地方創生策を講ずるため、新しい地方経済・生活環境創生交付金により、地域の書店を含む商店街や中心市街地の活性化の取組など、地方公共団体の自主性と創意工夫に基づく、地域の多様な主体の参画を通じた地方創生に資する地域の独自の取組を支援する。

【内閣官房新しい地方経済・生活環境創生本部事務局】



熊本県書店商業組合様「プレミアム図書券」▶

「商店街等売上回復支援事業費補助金」を活用
商店街及び協同組合等が実施する売上回復のための
イベント開催等の事業に要する経費

- ・補助率：予算の範囲内において、補助対象経費3／4以内
- ・補助上限額：事業協同組合等 上限200万円



熊本県書店商業組合が発売したプレミアム付き図書券
© 熊本日日新聞

本と出会う居場所づくり

宮崎 NEWS WEB

宮崎市 6月から18歳以下の子ども全員に図書カード配布へ

物価高騰の影響が続く中、宮崎市は、家庭の経済的な環境に関わらず、読書に親しんでもらおうと、ことし6月から市内の18歳以下の子どもたち、6万人余り全員に1人5000円分の図書カードを配布することになりました。

これは、宮崎市が物価高騰による家計への影響が長引いているため、生活の支援と経済対策の一環として行うもので、今年度の予算におよそ3億6000万円の事業費を計上しています。

対象は、市内に住む0歳から今年度18歳になる子どもたちおよそ6万3700人で、1人5,000円分の図書カードを配布します。

市子育て支援課は「物価高の中、生活必需品の購入に手いっばいで、本を購入できない家庭もあると思う。子どもたちが継続的に本を読めるよう支援したい」としています。

主旨 熊本市立図書館の書籍購入方法に関する請願

- 1 「書籍購入業務」と「購入書籍への装備作業」は切り分けて、別々の契約として頂く事をお願い致します。
- 2 書籍購入は、地域書店を優先し、地域経済への貢献を図るとともに、出版社が定めた再販売価格（定価）での購入をお願い致します。
- 3 購入した図書の装備作業については、地域の福祉施設への業務委託を積極的に推進し、障害者雇用促進や地域福祉の向上に貢献できるよう努めて頂く事をお願い致します。



**2024年12月3日
ほぼ満票で採択**